

2016



 **愛知淑徳大学**
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111 (代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151 (代表)

CCC

活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

2016年度CCC活動報告書
発行：愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・ コラボレーションセンター (CCC) とは

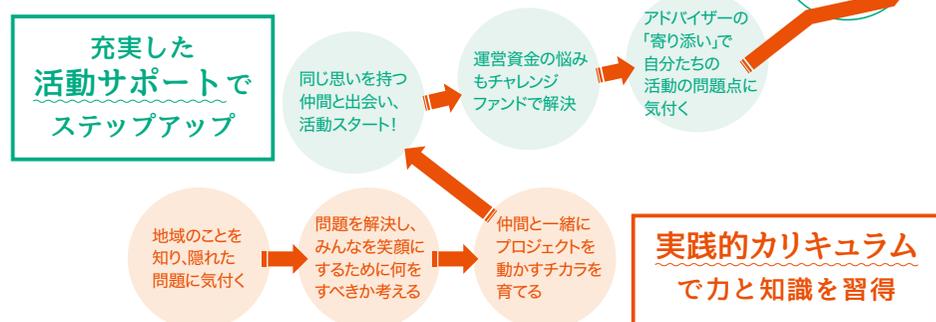
広い視野と行動力を身につけ、社会人基礎力の向上を目指します。

「地域に根ざし、世界に開く」を基本姿勢に、学生一人一人が地域で活躍し、社会に貢献できる人材になることを目指しています。ボランティアに留まらず、学外のさまざまなコミュニティとの連携を強め、「実践的カリキュラム」と「活動サポート」の両軸で学生たちの意欲や思いを実践的な活動に結びつけています。

CCCの学生育成ビジョン

みんなの「笑顔」で地域を、そして社会を変えよう。

広い視野と行動力を養う実践的カリキュラムと、スタッフの温かいサポートで心優しい、「素敵なオトナ」にブラッシュアップ!



CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という 思いに応える実践的カリキュラム

CCCでは、企業が実際に抱える課題をグループで解決していくPBL(課題解決)型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通じて社会貢献活動について学びます。



2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。



3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰まった場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。



目次



1. 2016年度 特別報告	
コラボメッセ&10年の軌跡	4・5・6
2. 2016年度 活動実績	7
3. センターの取り組み	8
3.1. カリキュラム	8・9
3.2. 活動サポート	10
(1) マッチング	11
(2) 自主活動の支援	12・13
(3) チャレンジファンド	14・15
4. 学生スタッフの活動	16・17
5. センター長より 2016年度 全体講評	18
6. 初めてボランティアを募集される方へ	19

Information

2016年2月
「CCC labo」開設

**みんなの笑顔で、地域を変えよう!
活動の様子を絶賛公開中!**

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。ぜひご覧ください。



←QRコードまたは で検索!

1 コラボメッセ&10年の軌跡



2016年10月15日(土)、星が丘キャンパスにて、行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)の皆様と学生が一堂に会して、活動報告&交流を行う「コラボメッセ」を行いました。昨

年から年1回開催することになり、今年は10周年の記念事業としてCCC10年の軌跡の紹介、CCC開設科目の紹介、卒業生によるディスカッションの時間も設けました。

第一部

活動発表



CCC連携団体30団体、学生団体20団体が参加して互いにポスターによる活動発表を行いました。これを機に介助犬PR「チームわんわん」、高齢者施設での演奏ボランティア「Fsus4」が名古屋市障害者スポーツセンターと協働でイベントを行う運びとなりました。

第二部

活動実施報告&卒業生プレゼンテーション



前半の報告では、この10年のCCC利用率、活動参加人数、主な活動の紹介が行われました。また、認知症に関するサービスラーニングの取り組み発表を行いました。後半は「ボランティアから描く人生デザイン」をテーマに卒業生3人が“仕事”“ボランティア活動”“生き方”を語りました。

第三部

交流会



200人程が参加しての大交流会。様々な団体の大人の方と多くの在校生、卒業生が日頃の活動についての課題や構想などについて語り合いました。この交流会の出会いで先輩(卒業生)、後輩のネットワークができ、今後の活動の協力体制ができる場面もありました。

CCC 10年の「はじまり」と「これから」(事業抜粋)

2006 CCC開設&地域・企業とのアクション開始!

CCC開設記念講演会&交流会
富士国際エコキャンプへの参加((独)国立青少年教育振興機構 主催)
中部電力(株)との連携活動(学生団体 エコのつぼみ)

2007 CCC開設科目開講&地域と連携したプログラム本格開始!

★めいとうボランティア展企画・運営(学生と名東区社会福祉協議会・市民団体の協働)
NPOと連携、EXPOエコマネーを利用した環境企画・運営
桜ヶ丘自治会(星ヶ丘地区)とのクリーンアップ活動・スクールガード



CCC開設記念



名古屋市社会福祉協議会
小林 様の声

人と人との「つながり」を大切に業務にあたってきました。CCC開設当時より、“名東区で活動している素晴らしい団体のみなさん”と“愛知淑徳大学の学生さんたち”がともに活動を行えたら、どんなにまちが元気になっていこう!と何度もCCCにも足を運びました。あの時の1歩が10年を経て、多くのつながりを生み出したことを大変うれしく思っています。そして、いつも学生さんたちが地域にパワーを与えてくれていることに感謝しています。

2008 学生企画の開花&地域のニーズに応じて

在住外国人の子どもの想いを映像化・ケーブルTVで紹介
長久手市受託事業グリーンマップ企画
小学校英語活動サポート開始
手話deランチ開始(障がい学生支援)

2009 新たな学生支援プログラムと広がる連携

学生の社会貢献活動 団体支援「チャレンジファンド」開始
日進市受託事業「男女平等パートナーシップ事業(父親の育児参加応援プログラム)」企画・運営
ボランティア展(ボラみ展)での「Let's Action講座」企画・運営

2010 学生と地域の縁(えにし)が新たな可能性を創る!

愛知県「環境賞」優秀賞受賞
愛知県主催「学生によるリコモ沿線地域づくり活性化事業」
長野県農家との協働プロジェクト 南信州規格外野菜スイーツ開発

2011 5年の軌跡を振り返り さらなる前進

CCC5周年記念セミナー開催
日進市受託事業「子ども国際理解教室」
学生自主企画「JICAに行こうツアー」
東日本大震災支援事業開催(年6回)(学生団体 なごやであそび隊)

2012 培ったネットワークではじまる新たな挑戦

内閣府主催「日本・韓国青年親善交流事業」企画・運営
長久手市協働まちづくり事業企画・運営(学生団体 こめ☆こめくらぶ)



2013 基盤をかため 世界も視野に!

名東区人権尊重のまちづくり事業「めいとう☆という〜カルタをつくろう!」
環境サロン「ESDカフェ〜持続可能な明日のつくり方〜」(協力:(公財)名古屋国際センター)

2014 CCCで育まれるESD☆〜持続可能な社会を創る人づくりを目指す〜

ESDユネスコ国際会議(通訳ボランティア、子ども会議学生サポーター、分科会参加 など)
長久手市ごみ減量プロジェクト(学生団体 Na-Gomi)
日進市助成金事業 障がいのある子とない子の交流イベント(学生団体 ちゃっちる)
愛知県助成金事業 間伐材の活用促進ワークショップ

2015 10年の節目に向けて原点確認&改革 地域への感謝をこめたコラボメッセスタート!

学園創立110周年記念事業「コラボメッセ」(行政機関、企業、NPOなどの地域団体25団体×学生団体25団体の活動発表)
トヨタ自動車(株)JDRトヨタとの協働事業「独居老人とのふれあい交流会」開催
長久手市市内一斉防災訓練ブース出展(長久手市主催)
日本財団助成事業 過疎化・高齢化が進む山間地域の伝統芸能の保存サポートと都市地域への情報発信(学生団体 きらきら☆したら)

2016 これからの10年〜違いを共に生きる体験を〜

★名東区ボランティア連絡協議会のみなさんとの活動振り返り会
名古屋市名東区にて継続的に活動されてきたボランティア団体のみなさんから、活動の内容や課題について、グループに分かれてお話をうかがいました。各グループには学生も入り、みなさんのお話から「ボランティアに必要な大切なキーワード」を拾いおこし、模造紙で発表しました。



学生スタッフの声

この振り返り会を通じて、改めて「ボランティアとは何か?」と考えさせられました。それは、決して一方通行の人助けではなく、お互いに「支え支えられる関係」であり、互いに成長できるものでなければならぬと学びました。そのためにも、私たちはボランティアに参加したことへの自己満足だけで終わらずに、そこで

の多くの人との出会いから何かを学ぶことが、ボランティアの本当の意味ではないかと感じました。

今回、名東区で活躍されている方々の活動に対する長年の熱い想いに直に触れることができ、たくさんの刺激をいただいたと共に、その熱い想いや姿勢を、これからは私たち若い世代が受け継いでいかなければならないな、と強く思いました。

福祉貢献学部2年
篠田 梨央

10年を超えて...

「はじまり」は地域の足元を見ること、知ることからでした。気づき、学んだことで次のactionを創り出すようもがいてきました。みなさんと共に笑ったり、悲しんだりすることを続けてきました。「これから」もずっと、様々な違いを共に活動していきます。

CCCスタッフ一同



2016年度

コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

●利用状況

CCC登録者人数 3,744人
利用者数 延べ15,627人

登録 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
利用者 情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生

募集型ボランティアへの参加者数*(分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	その他	計
2016年度	99	228	162	339	210	76	1,114
2015年度	217	288	158	381	193	170	1,407

*CCC登録団体から募集があったボランティア活動に、CCCを通して申込み・参加した学生を指す。学生団体などによる自主活動(P.12・13参照)の活動者数は含まない

産学官連携事業(抜粋)

- 瀬戸信用金庫との連携
有志学生が瀬戸市内の保育園での「すみれの苗贈呈式」とレクリエーションの企画・運営
- 東邦ガス(株)との連携
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベント企画・運営(年3回)
- トヨタ自動車(株)ボランティアセンター・JDRトヨタとの連携
有志学生との共同企画として、養護施設の子どもたちを本学長久手キャンパスに招いての交流会を実施
- 東谷山フルーツパーク・ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)との連携
有志学生との共同企画として、東谷山フルーツパーク内でのイベントを企画・運営
- 愛知県との連携
かがやけ☆あいちサスティナ研究所の研究者として本学学生が参加
- 愛知県警・長久手市児童館との連携
有志学生との共同企画として、防犯体験学習イベントを企画・運営
- NPO法人楽歩との連携
有志学生がイオンモール長久手にて一日カフェを企画・運営

受託事業(抜粋)

- 男女平等パートナーシップ事業
(委託者:日進市)
- グリーンマップ作成プロジェクト
(委託者:長久手市)
- 子ども条約普及啓発事業
(委託者:日進市)

助成金交付事業(抜粋)

- 名古屋市白金児童館より助成
学生団体「りんく」による高齢者と児童を繋ぐイベントの企画・運営
- 日進市役所福祉課より助成
・学生団体「ちゃっちる」による障がいのある子とない子の交流イベントの企画・運営
- 日本財団より助成
・ソニーの森「フクロウフレンズ」
…有志学生による子ども向けの森の生態系マップづくり



3 センターの取り組み

3.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティア活動の基礎や、地域の方々と協働するうえで必要となるマナーや支援方法などを学ぶ「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2016年度CCC開設科目 一覧

●知識系

CCC スタートアップ講座	金治 宏 先生
ボランティア	金治 宏 先生 橋本 吉広 先生
障がい者支援ボランティア	荒賀 博志 先生
まちづくりマーケティング	大塚 英揮 先生

●実践系科目

コミュニティ・サービスラーニング 企業のCSR	出原 遠宏 先生
コミュニティ・サービスラーニング 地域福祉	橋本 吉広 先生

●スキル系

企画立案の基礎	NPO 法人アスクネット
---------	--------------

2017年度開講予定の新規科目

ファシリテーター養成講座	CCC キズナプロジェクト
--------------	---------------

授業報告 「ボランティア」

金治 宏 先生

履修生の声



本授業の目標は、ボランティアなど非営利公益活動の意義とその可能性について理解を深めることです。ボランティアを「地域的・社会的課題に対して、「おかしいぞ」とか「おもしろそうだ」といった関心から出発し、それを他人事にしないで自ら主体的に選りとり、他の人びとと協同的に課題を解決しようとして行動する人」と定義し、ボランティアの可能性について学生と一緒に考えました。

授業では、複数の外部ゲストを招くなどしてボランティアの現場の話をして、学生が自らの出番と役割を考える機会を提供しました。たとえば、ゲス

授業では様々なグループワークを通じて、ボランティアに必要なコミュニケーション能力を身に付けたり、一人で考えるよりも時には多くの人と意見交換をして考える方がプラスになることを体感できました。また、外部ゲストや学生団体、履修している学生のボランティア体験の話が聞けて、とてもいい機会になりました。授業を通して、身近な社会問題に対する色々な角度からの見方や、自分たちに出来ることを考えることができ、知識や考えが深まりました。

ビジネス学部2年 深まりました。

益川 亜美



トに招いた名古屋市動物愛護センターの獣医師からは犬・猫の殺処分の状況と動物愛護のボランティア活動について説明を受けたうえで、自らの出番・役割を学生たちに考えてもらいました。

さらに、本授業では他者と協同するうえで必要な技法をグループワークを通じて獲得し、他の人びとと協力して問題解決の方向性を提案できるチカラを身につけることを目指しました。

授業報告 「企画立案の基礎」

小早川 真衣子 先生

履修生の声



本授業の目標は「何か行動を起こしたい!」と思った時に必要になる、「プランをチームで設計し、それに

基づいてチームでアクションを起こす」チカラを高めることです。企業・自治体・NPOなどから与えられた課題にチームで取り組むことにより実践を通して自己理解・社会理解を深め、そのプロセスを通して今後自分に必要となる力は何かを本授業では考えました。前半、後半2つの課題にチームで取り組み、自分たちの企画を発表してもらい、その後に振り返りをしました。

今年度は5クラス(星が丘:前期1、後期3、長久手:後期1)開講し、履修した学生は合計239人。レオパレス21、NPO法人楽歩(障がい者の就労支援)、NTTタウンページ、あんかけスパゲッティのヨコイ、名古屋市役所、そして本学アドミッションセンターと連携をし、具体的な課題を学生に示して

アイデアを形にするための情報収集や分析のスキル、企画を提案・実現するために必要なプレゼンテーション能力など、大学で私が学びたいと考えていたチカラを身につけることができた授業でした。他学部、他学年の学生とチームを組み、協同で課題に取り組むことを通して、多様な視点から物事を考えることの大切さに気付くことができました。「履修してよかった!」と心から思える講義内容でした。

交流文化学部1年 小林 知世



もらいました。それを受けて学生たちはチームで課題を解決する提案を練り上げました。連携先には、中間発表・最終発表の際にも参加してもらい、学生へのフィードバックを行いました。

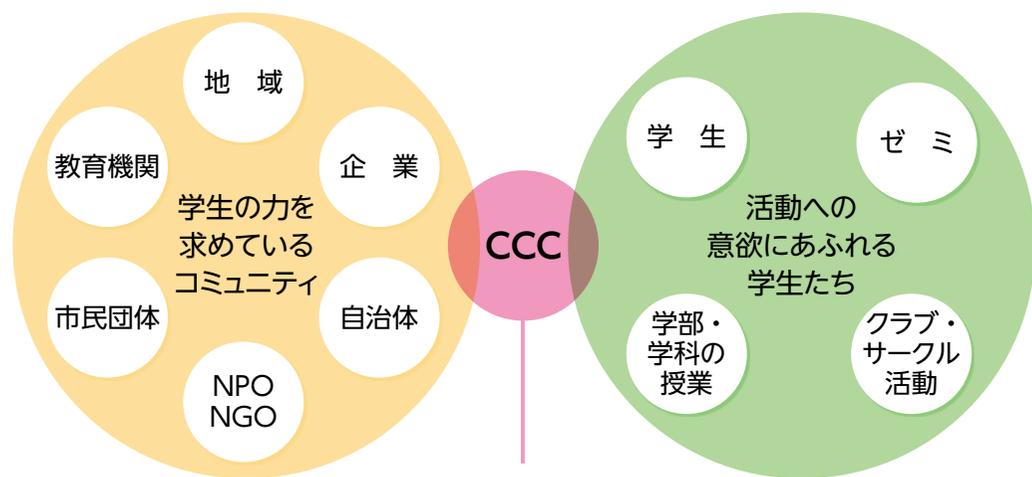
最後に、本授業では5クラスすべてで授業評価アンケートを実施しました。まず、本授業の満足度については、「満足できる」(非常に満足できる・やや満足できる)が93%、次に社会に出るための基本的スキルの変化は「高まっている」(非常に高まっている・やや高まっている)は96%でした。

3.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人一人異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結びつける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体(P.12・13参照)には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.14・15参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.4参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、
さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング …… 11
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 …… 12・13
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド …… 14・15

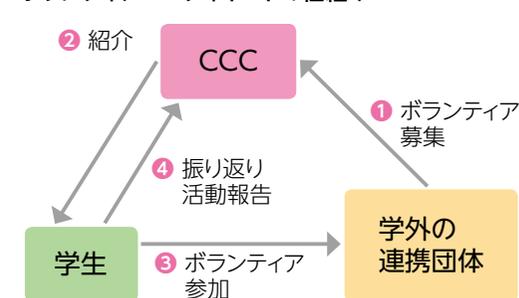
(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初めの一步として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングを行っています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、ひと月に2回、全学生に電子発信。活動分野は、国際交流、青少年育成、福祉、環境、まちづくりなど様々です。2016年度は、CCCを通じて述べ1,114人が活躍しました。

ボランティアコーディネートの仕組み

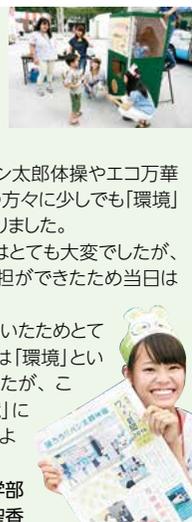


環境 環境デーなごや

連携先：なごや環境大学

私は「環境デーなごや」に参加し、パン太郎体操やエコ万華鏡作り、古本のトレードガチャなど、多くの方々に少しでも「環境」について考えてもらえるような企画を作りました。すべてを白紙の状態から計画するのはとても大変でしたが、それぞれの得意分野を活かした役割分担ができたため当日は大成功を取ることができました。また、人前で話す機会を与えていただいたためとても良い経験になりました。参加するまでは「環境」という分野にそれほど興味はありませんでしたが、このボランティアを通じて、より深く「環境」について学び、人に伝えていきたいと思うようになりました。

グローバル・コミュニケーション学部
1年 東村 聖香

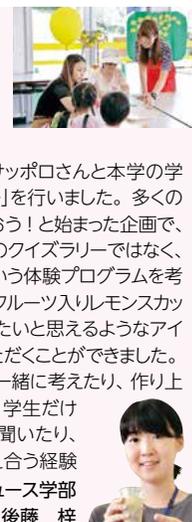


地域 レモン探検隊 クイズラリー

連携先：ポッカサッポロ 東谷山フルーツパーク

東谷山フルーツパークさんとポッカサッポロさんと本学の学生と協働で「レモン探検隊 クイズラリー」を行いました。多くの皆様にもっとレモンを身近に感じてもらう！と始まった企画で、「体験型」のイベントを考えました。ただのクイズラリーではなく、実際に触る、匂いを嗅ぐ、園内を探するという体験プログラムを考えました。また、最後にはお家でもできるフルーツ入レモンスカッシュを提供し、実際にレモンを使ってみたいと思えるようなアイデアを考え、来場者の皆様に喜んでいただくことができました。今回の経験から社会人の方と何かを一緒に考えたり、作り上げたりする経験は貴重だと感じました。学生だけでは考えつかない先を見越した意見を聞いたり、より良くなるようにお互いの意見を伝え合う経験が、とてもいい勉強 メディアプロデュース学部になりました。

3年 後藤 梓

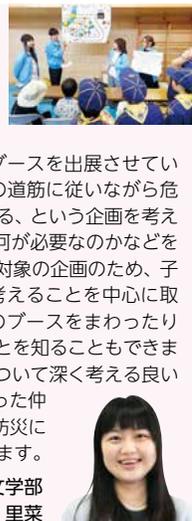


防災 長久手市 一斉防災訓練

連携先：長久手市

長久手市一斉防災訓練で私たちはブースを出展させていただきました。その中で、防災MAPの道筋に従いながら危険予知能力をクイズ形式でチェックする、という企画を考えました。企画を考える上で、防災には何が重要なかなどを一生懸命考えました。また、子どもが対象の企画のため、子どもにも伝わりやすい提示の方法を考えることを中心に取り組みました。当日は他の団体さんのブースをまわったり体験したことにより、知らなかったことを知ることもできました。当日の達成感も大きく、防災について深く考える良い機会となったので、今後も同じ志を持った仲間と一緒に防災の多様性に触れ、より防災について学び活動していこうと考えています。

文学部
2年 長崎 里菜

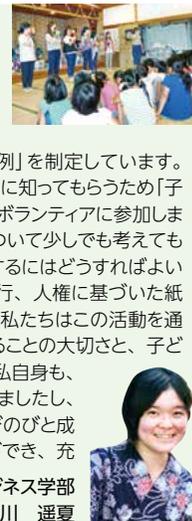


まちづくり & 青少年 子どもの権利について学ぼう

連携先：日進市

日進市では「未来をつくる子ども条例」を制定しています。子どもにも人権があることを子どもたちに知ってもらうため「子どもの人権のカルタ」作成のイベントのボランティアに参加しました。どうすれば子どもたちに人権について少しでも考えてもらえるか、そして何より楽しい時間にするにはどうすればよいかなど話し合いを重ねました。司会進行、人権に基づいた紙芝居の練習などの準備も行いました。私たちはこの活動を通して、子どもたちに人権について伝えることの大切さと、子どもたちと触れ合う楽しさを学びました。私自身も、人権について理解を深めることができましたし、こうした活動を通して子どもたちがのびのびと成長する手助けになることを感じることができ、充実したものとなりました。

ビジネス学部
3年 北川 遥夏



(2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動を行っている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。



地域活動向けのミーティング



活動報告会

自治体 ∞ 学生

バレンタインチョコ作り (ちょこるず)



2、3年次の2度にわたり、日進市の子どもたちとフェアトレードについて学びながらバレンタインチョコを作るイベントを企画しました。

1回目開催した際の反響や反省点をもとに、フェアトレードについて、子どもたちに分かりやすく伝えられる方法を模索しながら、仲間とミーティングを繰り返しました。チョコ作りやフェアトレードに関する紙芝居、クイズに加え、フィリピンでの実体験をもとにしたクイズなど、盛りだくさんの企画に、子ども

連携先・日進市

北部福祉会館 佐藤 様の声

大学生の若い力と知識を活用し、小学生と交流を図る「バレンタインチョコ作り」は大変好評です。子どもたちがお兄さん・お姉さんに作り方を聞いたりする姿は、お互いが楽しみながら作っている印象を受けました。フェアトレードについて、紙芝居や写真、クイズなどを取り入れて体験を交えながら紹介していたため、分かりやすく、難しいことでも子どもたちに上手く伝えられていたと思います。最後に、顔写真付きのカード作りなど、盛りだくさんの内容に子どもたちも、とても満足な様子でした。

フェアトレード: カカオなど物を作っている人が安定した生活を送れるように商品そのものの値段で働いた分のお金をきちんと渡すことができる仕組み。

たちだけでなく、自分自身も大いに楽しむことが出来ました。

子どもたちの「分かりやすかった」や「楽しかった」の言葉は達成感に繋がり、またその笑顔に会いに行きたいなと思いました。

心理学部3年 玉木 奈々子



地域 ∞ 学生

共同料理なごやか



私たちは、地域の高齢者と料理を通して交流することを目的としています。なぜ料理にこだわるのかというと、多世代間を通して「食」は最も身近な共通ワードであると考えたからです。現在の日本は、超高齢社会となり高齢者の生活形態は多様になりつつあります。

地域との関係が希薄状態という現状が挙がる

連携先・三ヶ峯元気会

安達 様の声

学生団体「共同料理なごやか」との交流は今回で2回目となり、メニューを一緒に考えて料理を作りました。このような楽しい時間を一緒に持つことが大事なことだと実感しています。お会いするたびにみなさんからエネルギーをいただき、それが自分の生きる力になっている気がします。

中、「同じものを一緒に食べる場」の提供を行うことで、自然な会話や情報共有が図れ、ネットワーク～繋がりを持つこと～の形成ができると考えています。昔ながらの知恵という強みを活かしながら、学生と高齢者にとって互いの関係性が求められ、それが必要となっていく活動に力を入れて、取り組んでいきたいです。

福祉貢献学部3年 梅田 愛加



地域 ∞ 学生

Teamみその



私たちは名古屋の伏見にある「御園通商店街」で毎月11日に開催される「500円市」、年に1度開催している「歌舞伎フェスタ」の企画・運営を行っています。2015年2月から本格的に活動を開始し、商店街の方々と一緒になって頑張っています。私自身、ボランティア経験はなく、始めた頃は商店街の方々とどうやってコミュニケーションを取ったらいいのか悩みました。また、メンバー同士の意見をまとめる難しさも痛感しました。「歌舞伎フェスタ」の企画・運営時には

連携先・御園通商店街振興組合

理事長 松本 様の声

学生さんに企画を行ってもらうことで、新しいアイデアが出るのが助かります。チームワークよく動いてくれて、歌舞伎フェスタも企画から実行までよくできていたと思います。100年以上の古い歴史のある商店街のメンバーが構成員ですから、新しい(若い)学生さんが加わってくださって、良い面、悪い面(企画が通らない)もありながら、一緒にやってこれたことが良いことだと思います。

今後は、新しく移住される方々とも商店街活動を行っていくことになるので、そんな面も見ていただけると嬉しいです。

商店街の方々と意見の食い違いがありましたが、何度も話し合いを重ね、より良いものにしようというメンバーと商店街の方々の一体感が生まれ、素晴らしいイベントになりました。

この活動から、商店街の方々が守ってきた歴史や伝統を知りました。また、コミュニケーションの大切さを改めて認識しました。これを今後の活動につなげていきたいと思っています。

ビジネス学部3年 伊藤 福実



(3) 【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生によるさまざまな自主活動を助成する制度「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動や、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供を行っています。

2016年度は、「一般部門(助成額上限10万円)」、「スタートアップ部門(助成額上限5



万円)」の2部門において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、8団体がそれぞれの活動を展開しました。

2016年度チャレンジファンド採択団体一覧

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	Volunteer Lab	長久手市内でのイベントに参画し、長久手市の地域活性化に繋げる	愛・地球博記念公園、長久手市観光交流協会
一般部門	共同料理なごやか	孤食など食生活の改善、多世代にわたる繋がり、地元野菜のPR	三ヶ峯元気会、サロンわいわい
	Fsus4	高齢者や障がい者施設での演奏や交流を通して、相互に理解を深める	社会福祉法人愛知たいようの杜
	みかさ	笠寺商店街活性化のため、観光資源の宣伝やイベントを開催する	かんでら monzen 亭
	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通じて介助犬の認知度・理解拡大を図る	社会福祉法人日本介助犬協会
	コミュカフェ	住民の交流を深め、災害時などに助け合える地域をつくる	レスパイトハウス やさしいところ
	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	西尾市教育委員会
	ボランティアサークル あじゅあす	地域住民への障がい者・高齢者への理解の拡大と、住民同士の繋がり強化を目指す	社会福祉法人ポレポレ、オーネストひびの大宝

チャレンジファンド1年の流れ

4月	募集開始	10月	中間報告書提出・中間面談
5月	募集説明会 申請対策講座 申請書相談 WEEK	1月	プレゼン講座
6月	公開コンペ	3月	最終報告書提出 最終報告会 会計報告書提出

2016年度採択プロジェクトのうち、2団体の活動を報告します。

みかさ「BOOKS HONEY」

笠寺商店街の活性化のために、空き家で読書会を開催して地域の方が交流する場を作る活動をしています。

気軽に参加してほしいという思いを込めて「本を読まない読書会」を開催しています。

活動の中で、毎回の読書会の参加者が集まらず、私たちの活動が商店街の役に立っているか悩む時期がありました。

そこで助けてくださったのが地元の方々でした。

読書会の広報活動に力を貸してくださり、空き家以外での開催の道筋を立てていただきました。

この経験を通じ、まちに必要とされるには地元の方との連携が大切だということを学びました。



2017年1月29日 読書会の様子

今後も感謝の気持ちを忘れず、地元の方と協力しながら活動していきたいと思います。

交流文化学部3年
平野 衣理佳



コミュカフェ「月一カフェで地域交流の架け橋になろうプロジェクト」

私たちは、月に一度レスパイトハウス「やさしいところ」で、近所の方を招いてカフェを行っています。地域交流の架け橋となり、地域交流を深め、近隣住民同士が顔見知りになり挨拶できる関係作りを目標として活動しています。

最近では地域の方々や子どもたちの参加者も増え、毎月活発に活動ができるようになってきました。子どもたちと利用者さんが交流できるカフェを目指しているのですが参加者の方の「楽しかった、ありがとう」の声や笑顔を見ることができるととても嬉しくいつも支えになっています。

今後も月に一度季節に合ったカフェを開催する



2017年2月18日 バレンタインカフェ

ことで、地域交流の架け橋となっていけるように活動していきたいです。

福祉貢献学部2年
田中 るり



4 学生スタッフの活動

CCCは、さまざまな思いを持った多くの学生が集まる場所となっています。学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の思いを形にする重要な役割を担っています。

「学部はどこ?」「ボランティアは初めて?」などの気軽な会話から、思いを引き出し一人一人の個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく、自ら企画なども行い、自分たちの活動の幅を広げています。



星が丘キャンパス

- 飯田 諒子 (交流文化学部4年)
- 石黒 友理 (ビジネス学部3年)
- 鈴木 彩香 (交流文化学部4年)
- 森野 詩穂 (ビジネス学部3年)
- 鈴木 紗英 (交流文化学部3年)



長久手キャンパス

写真左上から、時計回りに

- 石塚 千夏 (文学部4年)
- 浅井 里美 (福祉貢献学部4年)
- 古川 亮 (心理学部3年)
- 加藤沙也果 (メディアプロデュース学部2年)
- 和田 清花 (文学部2年)
- 加藤紗奈美 (福祉貢献学部2年)



2016年度の主な活動

日付	行事名
2016年 4月 7日	新歓フェス
2016年 6月 25日	名古屋市主催「ぼらマッチ!」ワークショップ実施
2016年 7月 3日	(株)デンソー主催「デンソーグループハートフルまつり」ブース出展
2016年 10月 15日	CCC主催「コラボメッセージ」企画・進行
2016年 11月 28日	学スタ企画「働く×自分×ボランティア」
2017年 3月 24日	学スタ企画「リーダー会」



学生スタッフ企画① 働く×自分×ボランティア

社会人の方々からボランティアや生き方について学ぶことを目的とした企画を行いました。

3回に分けて行われたこの企画の第2回では、トヨタ自動車(株)DRトヨタより鈴木盈宏さんを招き、ボランティアの始まりについて考えました。

「始まり、きっかけは何だっかっていい」とおっしゃる鈴木さんの言葉がとても印象的でした。その言葉がボランティア未経験の人には強い後押しとなり、経験者は今、一生懸命活動を続けているということが大切なんだということを確認できました。



今後は得たことを自分に活かすだけでなく、学生や地域の方々へと伝えていきたいと思っています。

心理学部3年 古川 亮



学生スタッフ企画② リーダー会

CCCで活動するボランティア団体リーダーの学生向けに、大塚センター長の講義を通して活動を振り返りながら団体のキャッチコピーを考えるというプログラムを企画し、イベントを開催しました。

まず、1年間の活動を振り返り、第三者に伝えたいことを見つけて一番伝えたいことを探しました。次に、伝えたい想いはたくさんある中で、それの一つに絞りました。学生団体同士の交流もあったので、他の団体の活動を知る機会にもなりました。

イベント後「活動を振り返る良い機会になった」、「自分たちが大切にしたいことは何か再確認するこ



とができた」と嬉しい言葉がもらえました。今後も、学生が楽しみながら学べるような企画を行っていきたいと思っています。

ビジネス学部3年 森野 詩穂



卒業する学生スタッフの言葉

「とっても楽しかったです」、「うまくできました」そんな嬉しい言葉を聞くことができた時が何よりもやりがいを感じる瞬間です。

学生さんの近くで学びや成長を応援できるこの場所で、学生スタッフをやらせていただいたことは私にとって、とても良い経験になりました。

ボランティアを通して大きな達成感を感じたり、自分に自信が持てたり。その一瞬一瞬を見守ることができてとても幸せです。

交流文化学部4年 飯田 諒子



学生スタッフをする中で、自分で「体験」したことは消えることなく自分の中に蓄積されて、明日、1年後、10年後、いつ、どんな場面かはわからないけども必然的に生きてくるんだと思うようになりました。

だからこそ、自分自身も目の前に起きたどんな「体験」でも大切にしていきたいですし、ボランティアでもアルバイトでも、どんなことでも素晴らしいと伝えていきたいです。

文学部4年 石塚 千夏





5 センター長より 2016年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 大塚 英揮
(ビジネス学部 教授)

CCCは、とっても不思議な場所です。世の中は「就活第一主義」で、「資格」だ、「現場で役立つ実学だ」、ということが盛んに言われ続けているのに、CCCは創設された10年前と変わらず、ゆったりとした、あたたかい時間が流れています。誰かのことを思って行動すること、見えない社会問題に目を向け、現場にとびこむこと。就職活動に直結するわけでもない、すぐに役立つわけでもない、そんな多くの「ムダ」が集まってくる。その「ムダなこと」と全力で向き合うことで、学生たちは自らの人生を、人間性を豊かにしていく。学生たちに「勇気」と「翼」を与えてくれる不思議な場所。それがCCCなんです。

2016年度は、CCC開設10周年の記念すべき年でした。学生団体とCCC連携団体との絆を深めることを目的に「コラボメッセ」を開催。CCCから羽ばたいて、社会で活躍されているOB・OGの皆様を迎え、CCCでの活動が人生にとって本当は「ムダ」ではないことをみんなで再確認することができました。

学生たちに貴重な学びの場所をご提供いただいている地域の皆様、企業、団体、行政の皆様には深い感謝の念でいっぱいです。今後ともご指導、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

スタッフからの 10周年の言葉

この10年間、
「学生が主役となり地域貢献活動を通して成長する」こと
「活動でキラキラ輝く大人の姿を学生たちに見せる」ことをモットーに運営してきました。
CCCを訪れた学生の初めの1歩は、いつも学外のみなさまの元につながっています。
学生たちはみなさまの元で学びます。
笑顔を作り出す素晴らしさ、大切さ、そして続けていく大変さ。
でも、そうやって社会を少しずつ変えていく大人がたくさんいることを。

活動を繰り返すことで、自分の弱みは何か。強みは何か。
自分が学ばなければならないことは何かを知り、成長していきます。
そして、動けば社会が変わることを心と体で体験します。

10年、20年先の地域の姿と一緒に語り合えるよう、寄り添っていけたらと思います。
今後ともご指導、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
CCCスタッフ一同



6 初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まず以下をご確認いただき、お電話でご連絡ください。

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター ボランティア情報の取り扱いに関する方針

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター（以下、「CCC」と表記します）では、以下の方針に基づき、NPO/NGO、民間団体等（以下、「団体」と表記します）のボランティア情報（地域・市民活動）を紹介します。

1 対象となるボランティア活動

- ① 公益性・公共性が高い活動
- ② 営利を目的としない活動
- ③ 受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った活動
- ④ その他

・団体例は、次の通りです。

ボランティア民間団体（NPO/NGO）、社会福祉法人、学校法人、社団法人・財団法人等の非営利法人、社会福祉施設・社会教育施設・その他公共施設、企業等。

2 受付できないボランティア活動

- ① 政治的、宗教的活動を目的とする活動
- ② 危険が伴う活動
- ③ 人体に有害な活動
- ④ 法令に違反する活動
- ⑤ 公序良俗に反する活動
- ⑥ その他、CCC運営委員会の審議の結果により不適当だと判断された活動

3 団体との申し合わせ

団体とCCCとは、以下の点を申し合わせ事項とさせていただきます。

- ① ボランティア活動に参加する学生に対し、各団体が活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意の上、活動を始めることとします。
- ② 活動をはじめの前には、各団体がオリエンテーション、研修等を実施し、必要な情報や留意点をあらかじめ伝達することとします。

③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととします。

④ ボランティア活動に参加する学生は、あらかじめボランティア保険に加入していることを両者で確認することとします。本学学生がボランティア活動を行った際に、募集の条件と異なる状況が生じた場合、精神的、肉体的苦痛を受けた場合等には、CCCが活動先と調整、苦情申し出等の対応をいたします。

4 免責

CCCで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、CCCでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

2016年度 CCC運営委員

- 委員長 大塚 英揮 (CCC・ビジネス学部)
- 天野 成昭 (人間情報学部)
- 加藤 友紀 (健康医療学部)
- 久保田 絢 (ビジネス学部)
- 黒川 文子 (福祉貢献学部)
- 小島 祥美 (文学部)
- ブイ チトルン (交流文化学部)
- 平田 亜紀 (グローバル・コミュニケーション学部)
- 宮田 雅子 (メディアプロデュース学部)
- 米倉 五郎 (心理学部)
- 金治 宏 (CCC)
- 小早川 真衣子 (CCC)
- 和田 恭治 (CCC)

スタッフ

- 長久手キャンパス
- 青木 周子
- 東 那々子
- 内山 恵
- 蓮見 真紀子
- 脇田 夏貴
- 星が丘キャンパス
- 秋田 有加里
- 今井 里香
- 杉浦 暁子
- 中江 倫子